

事業名：「食」と「農」の豊かさ発見実践事業

農業振興課 農政係

|      |                 |      |   |              |    |      |      |     |  |
|------|-----------------|------|---|--------------|----|------|------|-----|--|
| 政策   | 02 明日につながる産業の振興 |      |   |              |    |      |      |     |  |
| 施策   | 01 都市型農業の推進     |      |   |              |    |      |      |     |  |
| 基本事業 | 06 地産地消と消費者との交流 |      |   |              |    |      |      |     |  |
| 開始年度 | 平成18年度          | 終了年度 | — | 実施計画<br>事業認定 | 対象 | 会計区分 | 一般会計 | 補助金 |  |

|   |  |
|---|--|
| <b>事務事業の目的と成果</b>   |  |
| 対象（誰、何に対して事業を行うのか）  |  |
| 市内小中学生及び市民  |  |
| 手段（事務事業の内容、やり方）   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者を講師に小中学生を対象とした農業体験及び加工体験を実施する。</li> <li>・食育を推進するための協議会を開催する。</li> <li>・農協青年部が実施する消費者との交流活動に事業費の補助を行う。</li> </ul> |  |
| 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）  |  |
| 「食」についての共通認識のもと、次代を担う小学生や消費者に、「食ること」の大切さと「地域農業」に対する理解を深めてもらう。   |  |

| 指標・事業費の推移 |                      |    |         |         |         |         |
|-----------|----------------------|----|---------|---------|---------|---------|
| 区分        |                      | 単位 | 23年度実績  | 24年度実績  | 25年度実績  | 26年度当初  |
| 対象指標1     | 小中学校児童生徒数            | 人  | 10,305  | 9,722   | 9,441   | 9,274   |
| 対象指標2     | 市民                   | 人  | 122,138 | 121,385 | 120,208 | 120,802 |
| 活動指標1     | 農業体験及び加工体験学習実施回数     | 回  | 19      | 22      | 21      | 17      |
| 活動指標2     | 食育推進協議会議実施回数         | 回  | 2       | 1       | 1       | 1       |
| 成果指標1     | 農業体験及び加工体験学習参加者数     | 人  | 800     | 761     | 835     | 842     |
| 成果指標2     | 参加者の「食」及び「農業」に対する関心度 | %  | 100     | 100     | 87.5    | 100     |
| 事業費(A)    |                      | 千円 | 813     | 892     | 1,546   | 1,515   |
| 正職員人件費(B) |                      | 千円 | 4,816   | 4,409   | 5,078   | 5,086   |
| 総事業費(A+B) |                      | 千円 | 5,629   | 5,301   | 6,624   | 6,601   |

|      | 事業内容（主なもの）  | 費用内訳（主なもの）   |
|------|---|--|
| 25年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生体験学習（田植え・稲刈り体験、小麦追跡学習、酪農体験学習、野菜の学習）</li> <li>・学校給食への地場産農産物導入支援</li> <li>・グリーンスクールへの支援（実施団体への補助）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生向け食育事業 1,156千円</li> <li>・食育推進計画更新 248千円</li> <li>・地場産農産物導入支援 149千円</li> </ul> |

|             |
|-------------|
| 事業を取り巻く環境変化 |
| 事業開始背景      |
|             |
| 事業を取り巻く環境変化 |
|             |

|   |   |
|---|---|
| 平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）                      |   |
| (1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？      |   |
| 妥当である<br>妥当性が低い                                     | 理由<br>根拠<br>「食」の安全・安心が叫ばれている中、小学生や市民を対象とした、食育推進事業や農業体験を実施することは、食べることの大切さを学ぶこととなるため妥当である。  |
| (2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？                            |   |
| 貢献度大きい<br>貢献度ふつう<br>貢献度小さい<br>基礎的事務事業               | 理由<br>根拠<br>食べることの大切さを学ぶ機会を提供し、地場の農畜産物への関心を高めるとともに食育推進事業を実施することにより、消費者との交流が深まっていくため、貢献度は大きい。  |
| (3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？ |   |
| 上がっている<br>どちらかといえば上がっている<br>上がらない                   | 理由<br>根拠<br>産学官連携の組織である食育推進協議会による食育事業や市内農家による食育活動が各機関で評価を受けるなど、江別市内にとどまらず広くその取組みが知られている。近年は、小学校からの新たな体験希望も増えてきており、食や地場の農畜産物への関心の高さが現れている。 |
| (4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？                 |   |
| 成果向上余地 大<br>成果向上余地 中<br>成果向上余地 小・なし                 | 理由<br>根拠<br>参加小学校が増えることにより、より多くの小学生が体験する機会が増える可能性はあると考えられる。   |
| (5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？          |   |
| ある<br>なし  | 理由<br>根拠<br>今まで職員が講師となっていた体験について、外部講師等に依頼することで、所要時間の削減につながる。また、参加者側の負担を増やすことにより、予算を削減する可能性はあると考えられるが事業の推進の減速につながる可能性がある。                  |